

本会は小児医療施設の療養環境をボランティアの皆さんと一緒により良くしたいと2021年4月に立ち上げた会です。お互いの病院を訪問したり、WEBでの情報交換、学習会開催なども企画します。会員募集中。

## こども病院「ボランボラコの会」

### 立ち上げにあたって

この4月から会の名称が変わりました。新名称は「子ども病院ボラン・ボラコの会」。前身は「ボラコの会」です。全国の小児医療施設のボランティアコーディネーターたちの会でした。全国的にみてもコーディネーターは数が少ない上、一人職で他の仕事と兼ねていたりで情報が乏しい中で踏ん張っていたのです。ボランティア活動の発展にはキーパーソンのコーディネーターの会が必要で生まれた「ボラコの会」でしたが3年を経て、これからはボランティアも一緒に交流する会も必要と考えるようになりまし。両者が知恵を出し合い楽しい病院、怖くない病院、親が安心して子どもを預けられる療養環境を考えていきたい！そんな思いで本会が生まれました。会では皆様の発信を「活用いただけるホームページも作成いたしました。今後は、情報交換だけでなく、研修会の開催も予定しております。ホームページや動画も作成しましたので、お時間のあるときにご覧ください。

<https://boranboraco.jimdofree.com/>

## —公益財団法人キリン福祉財団助成事業—

# “こども病院ボランボラコの会”がはじまります！

第1号 2021/6/1 発行  
事務局 東京都新宿区若松町 10-1-302  
☎080-5527-4379 代表 坂上和子

## 共に歩もう！！ボランティアとコーディネーター

### 『2021年度第1回WEB会議』で次の事柄を確認しました。

- 1、総会の開催の日程
- 2、名称変更
- 3、研修会開催
- 4、各地の病院視察交流
- 5、広報活動

### 内容

- 1、総会の開催の日程  
・2022年2月ごろに予定



### 2、名称変更

・「小児医療施設ボランティアコーディネーターの会」→「こども病院ボランボラコの会」に変更。(2021年4月から)

### 3、研修会開催

・年4回程度(当面はWEBで・日程は調整中)

### ①ボランティアコーディネーターによる活動状況報告

②「うちのボランティアさん、こんな活動しています」のスポットをあてての報告も。今回は静岡こども病院のボランティアコーディネーター(藪崎さん予定)。この他、病院の院長先生やボランティア担当上司等をゲストでお招きし、ボランティア活動に対する意見やアドバイスを頂く。(今回は宮城県立こども病院の今泉益栄先生が予定)

### ③加入ボランティアの紹介と活動報告。

### 4、各地の病院視察交流

・可能であれば現地を訪問。難しいときは、WEBで

### 5、広報活動

・HPを公開の他、「ボランボラコ新聞」を発行。内容は各地のボランティア活動紹介、ボランティアコーディネーター挨拶、病院長や担当部署のインタビュー、ボランティア活動情報など。  
・小児看護12回連載(2020年6月号から21年6月号まで)  
テーマ「小児医療施設ボランティアコーディネーターの仕事」を冊子にして(写真右)、全国の小児医療施設や関連団体、希望者に配布する

※本会はキリン福祉財団の助成を受けています

### ボランティアコーディネーターを退職して

宮城県立こども病院 元ボランティアコーディネーター

佐藤直子



ボランティアのいないボランティアコーディネーター(VC)は本  
当に寂しいものです。

同様にボランティア活動のできないボランティアさんはかなり空しいだろうと思います。コロナ禍の中、ボランティア活動はボランティアさんの命を守るために活動中止を余儀なくされましたが、ボランティア活動は決して「不要不急」の活動ではありません。その証拠にはVCはボランティアさんが担ってきた病院内の活動を不十分ながら細々と続けているからです。丸1年間活動がないままに、例年のごとく、年度末に次年度のボランティア活動継続を取りまとめた時、約9割にあたる200人以上の方が継続の意思を示してくださったことでホッと安堵致しました。これが私のVC最後の仕事となりました。

私が2017年に4年間という期限付きでVCを引き受けるにあたり最初は200人近いボランティアさんとの距離感をどうしたものかと思っていました。何せそれまで言語聴覚士として狭い部屋で子どもとご家族にあい、お子さんの特性やご家族の状況に合わせて支援するのが仕事だったからです。でも言語聴覚士の退職時に後輩から「直子さんの『こどもファースト』の姿勢を受け継いでいきま」と言われ、自分ではそんな気はなかったのですが、ああそんな風にみられていたのか、これはいい言葉だからこれを私の信条ということにしたいやおうと思ってからは『ボランティアさんファースト』で臨むことにしました。

また、これまでの歴代VCの仕事をつつがなくなぞり、こなすことを念頭に置きました。ところがまだその職を継いですぐに坂上先生から「カナダのこども病院ボランティア視察ツアー」のお誘いを受けました。これまでのVCに海外出張はなかったのに、VCは海外に出かけるほどグローバルな職種だったのかと驚いたのですが「はい」と二つ返事で引き受けました。おかげ様で、なぞるばかりではなく、グリーンと視野を広げることができました。ボランティア活動そのものが日本ではなじみが薄く、日本でVCを専任で置いている病院が少ないことも初めてわかりました。その少ないVCの方々と知り合いになれたのも嬉しかったですし、その後の「ボラン・ボラコの会」にも意義を感じました。

VCになってボランティアさんと接するようになってからは不安も吹き飛びました。何せ皆さん自主的にこども病院のために尽力しようという方々なので、尋ねればそれまでの活動についてきちんと説明してくれますし、新たな提案もしてくれます。さらにきょうだい児のお預かりについての不安も率直に伝えてくれました。ボランティアさんの名前を覚えきれない私を、呆れたりがっかりしないで受容していただけた。真摯で思いやりと無償のやさしさあふれる方たちと同じ空間、時間を過ごせたのは本当に幸せでした。生涯最後の仕事がVCでよかったと心から思っています。仙台は今、ハナミズキの季節です。一部、替え歌を作りました「みんなの我慢がいつか実を結び、果てないコロナがちゃんと終わりますようにボランティア活動が百年つづきますように」